メインタイトルはMSゴシック16ポイント

～サブタイトル（オプション）はMSゴシック14ポイント～

210-XXX　　里山　学

要　　旨

要旨は1段落構成とし、1,000字以内で記載する。フォントはMS明朝（日本語）およびTimes New Roman（英数字）とし9ポイントを用いること。英数字は必ず半角とする。○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○

Keywords:　○○○○　△△△△　□□□□　3つ程度のキーワードを記入すること。

1. はじめに（章の見出しは、MSゴシック、Arial、10.5ポイントとする）

基本的には3または4段落構成とし、研究の背景（問題提起）、先行研究のレビュー（先行研究の動向、主な結論、クリティカルレビューを含む）、自分の研究のオリジナリティ、目的等のコンテンツを含むものとし、2から3ページ程度を目安とする。第1章では、図表を用いてはいけない。

かなり大きな視点（環境問題の歴史、世界的な問題としての位置づけなど）から研究の背景を論じつつ、自分の研究の中身にフォーカスする論理展開を意識すること。

他の文献等からの引用部分には、この文のスタイルに従い、該当部分に文献番号を上付きで付記すること[1]。

本文のフォントはMS明朝（日本語）およびTimes New Roman（英数字）とし10.5ポイントを用いること。英数字は必ず半角とすること。余白、文字数、行数、ヘッダー、フッター等の設定を変えないこと。

1. 調査方法（または開発方法）
	1. サブセクションについて

第2章は、いくつかのサブセクションを設けて、研究の方法について詳しく説明する。サブセクションの数は、必要に応じて増減させてよい。

* 1. 図表について

地図、写真、グラフ、表などの図表を用いて視覚的に分かりやすく説明すること。手順などは、フローチャートを用いてもよい。

* 1. 数式の作成方法

数式を挿入する場合は、Wordの数式エディタを使用し、(1)式のスタイルに従うこと。

$$D=1-\sum\_{i=1}^{N}\left(P\_{i}\right)^{2}　・・・(1)$$

ここで、各数式には(1)、(2)の形式で通し番号を付け、行中央にレイアウトすること。

* 1. 表の作成方法

表を挿入する場合は、Wordの表挿入機能を使用する。Excelで作成した表を図（拡張メタファイル）として貼り付けてもよい。表1のスタイルに従い、行中央にレイアウトすること。

表1　表の書式および作成上の注意点

|  |  |
| --- | --- |
| 項　　目 | 注　意　点a) |
| タイトル | 表1、表2の形式で通し番号を付けること表の上部中央にレイアウトすること |
| フォント | MSゴシック（日本語）、Arial（英数字）、10ポイント以下、英数字は半角とすること |
| 罫　線 | 原則として横線のみとするExcelで作成する場合、枠線が印刷されないように設定すること |
| a) 注はフットノート（この位置）に記すこと |

* 1. 図の作成方法

図を挿入する場合は、Power Point等で体裁を整えたのち、図（拡張メタファイル）として貼り付けること。図は原則として白黒（グレースケール）とするが、判別が難しい場合はカラーで作成してよい。写真はjpgフォーマットとする（カラーでよい）。図や写真の外周に枠線を付けてはいけない。図1のスタイルに従い、行中央にレイアウトすること。タイトルの前に図1、図2の形式で通し番号を付け、図の下部中央にレイアウトすること。フォントはMSゴシック（日本語）、Arial（英数字）、10ポイント以下とし、英数字は半角とすること。



図1　関東甲信静地域における粒子状物質の観測地点

1. 結果および考察
	1. サブセクションについて

第3章は、いくつかのサブセクションを設けて、研究の結果について詳しく考察する。サブセクションの数は、必要に応じて増減させてよい。

* 1. 図表について

地図、写真、グラフ、表などの図表を用いて視覚的に分かりやすく論述すること。文献引用、数式、図表等の形式は、前述の規定に従うこと。

* 1. 卒業論文の様式

【重要】卒業論文は、本様式（40字×35行／ページ）にて提出すること。本ファイルに上書きする形で卒業論文を作成することを推奨する。最低文字数は12,600字（本様式で9ページ相当、図表は含めない）とし、それに満たないものは初稿であっても受理しない。なお、文字数、ページ数に上限はない。

* 1. 卒業論文のスケジュール

【重要】当ゼミナールの卒業論文のスケジュールを表2に示す。指定期日に提出されなかった論文は、原則として以後審査しない（卒業論文の単位は認定しない）。

表2　卒業論文のスケジュール

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| スケジュール | 期　　日 | 備　　考 |
| 初稿提出 → クロスレビューa) | 11月22日（金）4限 | 規定文字数に達していること |
| クロスレビュー終了 → 修正 | 11月29日（金）4限 |  |
| 修正稿提出 → ピアレビューb) | 12月9日（月）4限 | 必要な修正がなされていること |
| ピアレビュー終了 → 修正 | 12月13日（金）4限 |  |
| 最終稿提出 → 印刷・製本 | 12月20日（金）4限 |  |
| 卒業論文提出 | 12月23日（月）AM | 当日以外は受理されない |
| a) クロスレビューとは、ゼミ生間による相互の査読を意味する。 |
| b) ピアレビューとは、指導教員（飯島）による査読（卒業審査）を意味する。 |

* 1. Word、Excel、PowerPoint等の操作方法について

卒業論文集を出版するため、論文のスタイルは厳密に統一されていなければならない。特に、図表を作成したり、それらをWordに挿入したりする際に、スタイルが規定に従っているかどうかを注意深く確認しなければならない。ソフトウェアの操作方法等、不明な場合は研究室に来て指導を受けること。また、ゼミ生間のサポートにも大いに期待している。

1. 結論

研究の背景、目的、方法、主な結果と考察をレビューし、問題提起に対して何らかの解答を導くことに留意する。また、政策提言や今後の研究の方向性に関する展望などを述べてもよい。基本的には2または3段落構成とし、1ページ程度を目安とする。第4章では図表を用いてはいけない。

謝　辞

卒業研究の推進に当たりサポートを得た場合に、次のスタイルに従って謝辞を掲載することができる。

本研究の推進に当たり、○○○○博士（□□□□研究所）に△△△△に関する助言をいただいた。また、○○○○氏（NPO□□□□法人）には、△△△△に関して技術的な指導をいただいた。ここに記して謝意を表する。

参考文献

1. 英文誌掲載の論文を引用する場合は[2]のスタイルに従う。著者名、論文タイトル、雑誌名、巻号、ページ、発表年の順で、雑誌名はイタリック、巻号はボールドとする。
2. Iijima A., Sato K., Ikeda T., Sato H., Kozawa K. and Furuta N.: Concentration distributions of dissolved Sb(III) and Sb(V) species in size-classified inhalable airborne particulate matter. *J. Anal. At. Spectrom.*, **25**, 356–363, 2010.
3. 和文誌の論文を引用する場合は[4]のスタイルに従う。著者名、論文タイトル、雑誌名、巻号、ページ、発表年の順で、雑誌名はイタリック、巻号はボールドとする。
4. 飯島明宏, 堀越壮一, 田子博, 熊谷貴美代, 冨岡淳, 加藤政彦, 関順司, 小澤邦寿: 亜鉛精錬工場周辺地域における浮遊粒子中カドミウムの動態解析. *全国環境研会誌*, **31(4)**, 206–212, 2006.
5. 本を引用する場合は[6]のスタイルに従う。著者名、編者名、本タイトル、出版社名、出版年の順とする。
6. 渡辺欣愛, 柏平伸幸, 牧野和夫, 桐田久和子, 西川雅高, 渡辺靖二, 四ノ宮美保, 大高広明共著, 日本環境測定分析協会編: 改訂新明解分析技術者のための環境分析技術手法, しらかば出版, 2009.
7. Webサイトの引用は原則として認めないが、やむを得ず引用する場合は[8]のスタイルに従う。
8. 国立環境研究所環境数値データベース: http://www.nies.go.jp/igreen/index.html （2012年9月27日閲覧）.

付　表

結果の一覧表など、大きな表は付表として論文の最後に掲載することができる。